

第 5 期中期目標に対する 令和 5 年度の達成状況

人と自然の博物館では、平成 14 年度から「中期目標」と「措置」を設けています。中期目標はいわば博物館の行動の指針となる大項目であり、それぞれに達成を目指すべき目標値(指標)が設定しています。さらに中期目標各項目の下位項目として「措置」を設定し、博物館活動の活性化に資する取組を数値で把握するよう努めています。

<これまでの中期目標>

第 1 期中期目標 平成 14 年度(2002 年度)～18 年度(2006 年度)

第 2 期中期目標 平成 19 年度(2007 年度)～24 年度(2012 年度)

*開館 20 周年にあたって策定した「ひとと自然の未来ビジョン」を反映させるため
期間を 1 年延長

第 3 期中期目標 平成 25 年度(2013 年度)～29 年度(2017 年度)

第 4 期中期目標 平成 30 年度(2018 年度)～令和 4 年度(2022 年度)

第 5 期中期目標 令和 5 年度(2023 年度)～9 年度(2027 年度)

2024 年度は、第 5 期中期目標の初年度です。次ページ以降に、各目標とそれぞれの達成度について評価し、2025 年度への取り組みを記します。

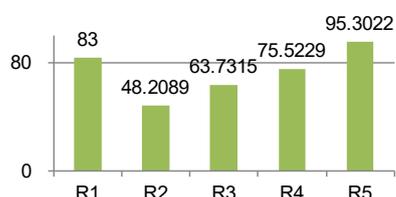
1 生涯学習支援

「リアルなモノ・コト・ヒトとの触れ合いに基づく多様な学び」と「生涯を通じて学び続けられる場」をすべての人に提供する。

1 総利用者数

本館利用者数、連携施設利用者数、主催アウトリーチ事業、共催・協力事業の参加者数

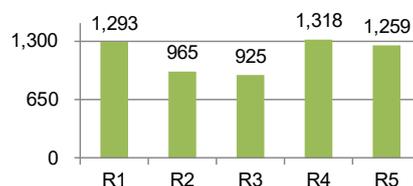
中期目標：80万人/年
令和5年度：95万人（119%）



2 セミナー実施件数

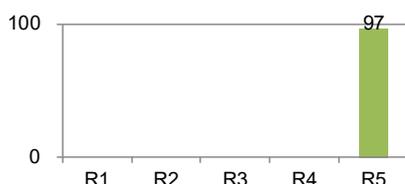
館主催プログラム（一般セミナー＋オープンセミナー＋特注セミナー）の実施件数

中期目標：1,300件/年
令和5年度：1,259件（97%）



3 セミナー受講者満足度

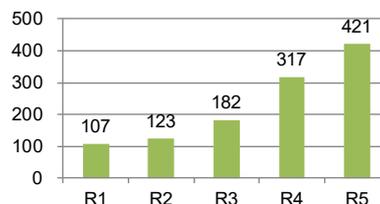
中期目標：95%
令和5年度：97%（102%）



4 主催アウトリーチ事業実施件数

館主催アウトリーチ事業（キッズキャラバン＋学校キャラバン＋その他キャラバン）の実施件数

中期目標：50件/年
令和5年度：421件（852%）



令和5年度の達成状況と自己評価

総利用者数は95.3万人、前年度比126.2%でした。この主因は、共催・協力事業参加者数が大幅増となったためですが、本館入館者は、前年度比102.1%の18.3万人で、約3千人の微増でした。また、館主催プログラム数は、1,259件、前年度比95.5%で微減ですが、コロナ禍以前の状況を概ね維持できるようになってきました。セミナー受講者の満足度は97%で高水準を維持しています。

令和6年度の取組に向けて

学校団体等の受け入れ時に、学校等の要望に合わせた学習プログラムを提案し、特注セミナーの利用率を高めていきます。また、来館者や地域の方々のダイバーシティに配慮した、インクルーシブな学習支援サービスもさらに充実させていきたいと考えます。引き続き、標本・資料や身近な自然を活用した学習プログラム・学習教材を提供し、「ひとはく」の利活用を促すとともに、効果的な情報発信・広報活動によって、利用者数の増加に努めます。

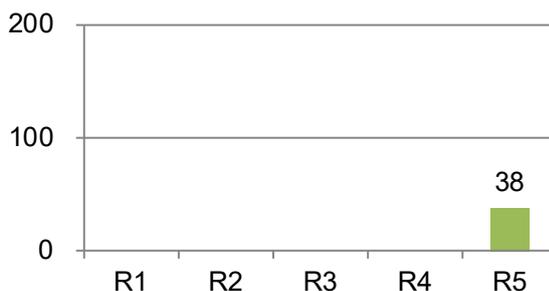
2 人材育成と活躍の場の整備

自然・環境・文化の継承に取り組む担い手の成長と活動を支援し、多様な主体との連携を強化する。

1 連携団体数

連携活動グループおよび様々な連携事業の相手先を含む団体数

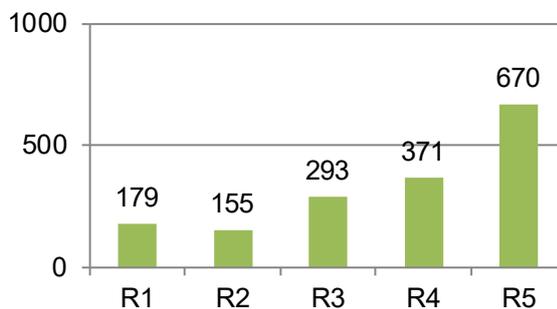
中期目標：200 団体(R9 まで)
令和 5 年度：38 団体 (19%)



2 連携事業実施件数

主催アウトリーチ事業、共催・協力事業、館内連携事業の実施件数

中期目標：170 件/年
令和 5 年度：670 件 (394%)



令和 5 年度の達成状況と自己評価

担い手の登録者、登録グループは、主催セミナーや観察会等の実施、共生のひろばでの発表など、ひとはくを活用した充実した内容を展開しました。現在の活動を活性化させるためにも、新たな仲間づくりは重要といえます。長く運用してきた登録システムやひとはく研究員との連携内容などについての課題、新たにひとはくと連携したいと考える人々をどのように発掘し、交流を深めるかといった方策などを検討したいと考えます。

令和 6 年度の取組に向けて

研究員個々人のもつ他団体や個人との関係を可視化し、担い手につなげることを検討します。今年度から、地域連携推進室により主に南あわじ地域とたつの地域で連携事業が始まりますが、これらの事業により新たな地域人材や博物館と協働できる地元団体の発掘および関係構築が出来ることが期待されます。

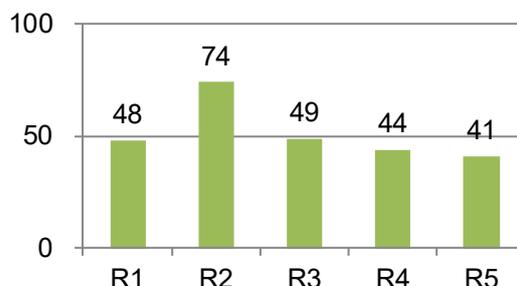
3 研究・シンクタンク活動

自然・環境・文化の継承に資する先導的・独創的な研究・シンクタンク活動を展開する。

1 学術論文・専門図書数

学会等の査読を経て掲載された学術論文と専門図書数

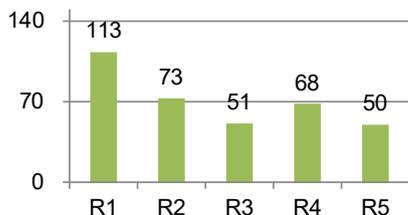
中期目標：50本/年
令和5年度：41本 (82%)



2 県政課題関連論文・著作・研究発表

県内を対象とした学術論文、著作および研究発表の件数の合計

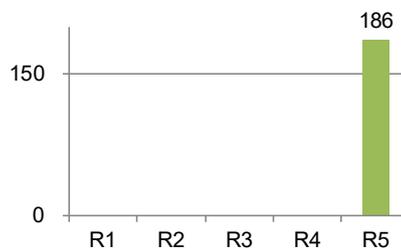
中期目標：70件/年
令和5年度：50本 (71%)



3 委員・アドバイザー等件数

国・県・市町関連の委員会参画数

中期目標：150件/年
令和4年度：186件 (124%)



令和5年度の達成状況と自己評価

シンクタンク活動については、高い達成率となっており、当館のシンクタンク機能が十分発揮されているといえますが、実態として個別の研究者や研究グループへの偏りが多い状況です。一方、研究活動について、学術論文・専門図書数は、例年よりもやや達成度が低く、県政課題関連論文等の件数は、目標値を下回る状況が続いています。研究のグローバル化によってローカルな研究が減少している可能性や、県や市町関連のシンクタンク活動の偏りにも関係している可能性がうかがえます。

令和6年度への取組に向けて

本年度は、研究者セミナー等の場において、異分野の研究者が在籍する当館の特色を活かした、分野横断型の研究の魅力と、それらを実社会やシンクタンク活動につなげられる視点の共有を図り、活発な研究活動とシンクタンク活動を促進したいと考えます。

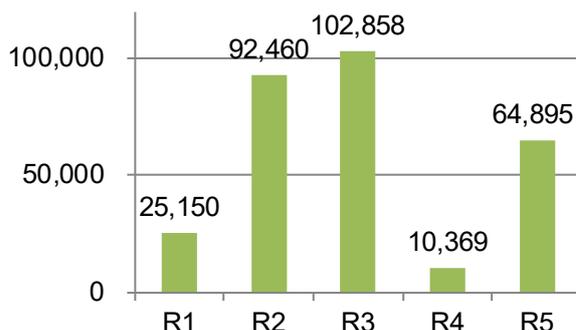
4 標本・資料

標本・資料の「収集・保管機能」と「デジタル・アーカイブ化」を強化し、標本・資料から得られる価値を最大化する。

1 標本・資料の登録点数

「ひとはく資料データベース」への年間登録件数

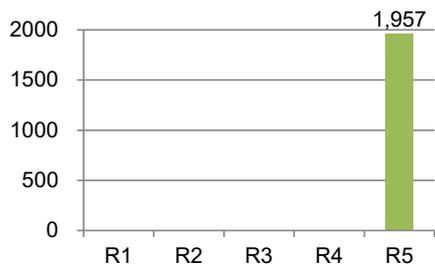
中期目標：20,000 点/年
令和5年度：64,895 点 (324%)



2 標本・資料のデジタルデータ登録点数

植物標本、昆虫標本、地学系標本、古写真データの登録点数の合計

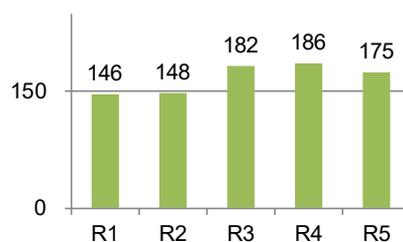
中期目標：1,500 点/年
令和5年度：1,957 点 (130%)



3 標本・資料の利活用件数

研究活用、館外展示、セミナー、研究、貸出件数、マルチメディア等データ提供件数の合計

中期目標：1,500 点/年
令和5年度：394 点 (26%)



令和5年度の達成状況と自己評価

データベースへの登録点数は予算等の要因に左右されますが、資料の利活用件数は順調に推移しています。デジタル登録点数は博物館法の改正に対応し今期から新たに指標として加えました。うち古写真や化石等収蔵資料のデジタル画像化が 394 点で、その他は植物等の生体写真や調査状況の映像などです。ここには未計上ですが、植物腊葉標本のデジタル画像化が精力的に進められています。

令和6年度の取組に向けて

すでに大型コレクションの寄贈が見込まれており、引き続き県内を中心とした資料の収集に努めます。デジタルデータの収蔵や一般公開については技術的な課題や運用上の課題が少なからずあります。他施設の状況も把握しながら活用に向けてのしくみづくりを検討していきます。

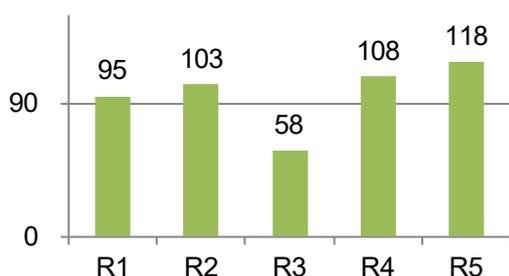
5 マネジメント

「情報発信の強化」と「マネジメントの最適化」を促進し、目指すべき博物館像の実現を図る。

1 HP アクセス件数

当館ホームページへのアクセス件数

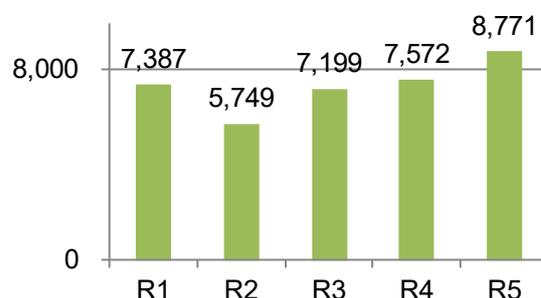
中期目標：90万件/年
令和5年度：118万件 (131%)



2 外部資金獲得金額

研究助成金、受託研究費、事業活動助成金の合計金額

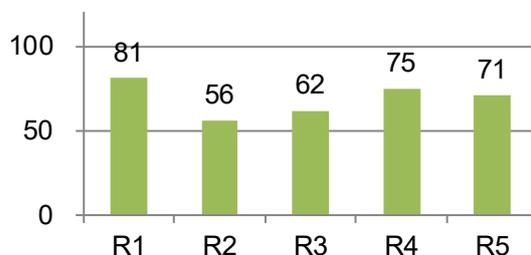
中期目標：8,000万円/年
令和5年度：8,771万円 (110%)



3 中期目標の達成度

当該指標以外の総指標数に対する「達成率90%以上の指標数」の比率

中期目標：90%
令和5年度：71% (79%)

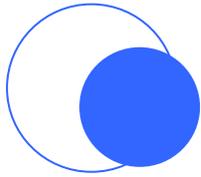


令和5年度の達成状況と自己評価

新しい中期目標のもと、1年目の達成度をみると順調に博物館活動が展開できていると判断できます。地域連携団体数は38という結果で目標達成に至っていませんが、研究員のプロジェクト一覧からはのべ208の連携団体を拾い上げることができます。ひとはくの多様で多彩な活動を適切に発信できるように、設定した目標の適切性について再考しつつ、実績に関する情報を収集していきます。

令和6年度への取組に向けて

令和6年度は、新たな中期目標のもとにより充実した博物館活動を進めていく予定です。とくに、ひとはくの新ビジョンを実現するためのタスクフォースを新たに立ち上げ、展示更新や外部空間の利用、周辺地域の賑わいづくりに貢献するひとはくの実現に向けて具体的に行動していきます。



タスクフォース事業

従来の組織群とは別に、短期の課題を達成するために平成 20 年度からタスクフォース制度を導入しました。各タスクフォースはリーダー・サブリーダー・メンバーで構成し、課題の達成状況に応じて年度途中でも人員は変更可能です。また新たなタスクフォースを発足できるようにしています。

■ 恐竜タスクフォース 令和 5 年度の主な事業

(1) 篠山層群化石を活用した地域活性化を目指す人材育成システムの構築

篠山層群から産出する化石の調査・研究をさらに推進し、その成果を活用するため、人材育成（発掘・剖出・普及教育）の体制を強化する。複数年をかけて持続可能な人材育成循環システムの構築を目指す。最終的には、ボランティア人材の登録 100 名体制を目標に、将来的に持続可能な人材育成システムの基盤をつくる。その基盤づくりに向けて、以下の事業を実施した。

1-1. 人材育成

発掘（石割）ボランティア：市民参加型発掘を実施し、新たな化石資料の発見、また調査に参画する人材の育成に努めた。新規登録人数は 17 名。総登録者数は 160 名（R.6.3 月現在）。これまでに行われた調査の参加者は延べ 1421 名。

剖出ボランティアの育成：恐竜ラボで受け入れ、剖出に携わるボランティア人材を育成している。新規登録人数は 9 名。現登録人数は 38 名（R.6.3 月現在）。これまでの参加者は延べ 1468 名 3838 時間。

普及教育ボランティア：「ひとはく化石専門指導員」の認定制度を設け、普及教育に携わる人材の育成に取り組んでいる。R5 年度の新規登録者数は 4 名、現登録者数は 23 名。

1-2. 市民参加型発掘調査

川代トンネル岩砕を対象とした市民参加型発掘を 5~6 月にひとはく・ジンファーム、11 月に県立丹波並木道中央公園で各 2 週間程度実施し、新たな化石資料の発見、また調査に参画する人材の育成に努めた。調査日数は計 24 日間。参加登録者は 52 名。参加人延べ数は 111 名。

(2) 研究

丹波竜に代表される篠山層群産の脊椎動物化石の研究を中心に、国内外の大学・研究機関等と協働して推進し、将来の研究拠点形成を視野に、研究実績の蓄積や地域づくり活動支援の強化を進める。

- ・関連論文 1 件（Palaeontologia Electronica）
- ・研究発表 3 件（Society of Vertebrate Paleontology）

(3) 普及事業

恐竜化石等の調査や研究内容をセミナーの開催や展示等を通じて広く公開する。

3-1. 展示

- ・臨時展示「和田式エアースクライブ 化石クリーニングにおける到達困難な空間への挑戦」（R6 3/1- R6 9/1）
- ・その他展示 3 件（協力：丹波市立丹波竜化石工房 1、あわじグリーン館 1、国営明石海峡公園 1）

3-2. 普及教育

- ・篠山層群産の恐竜・脊椎動物化石に関連する各種セミナーや発掘体験会等を実施（恐竜 T F 所属研究員の個人成果を参照）。

(4) 地域支援

平成 22 年度に締結した「篠山層群における恐竜・ほ乳類化石等に関する基本協定」に基づき、地域支援を展開している。平成 27 年度から丹波県民局が主導する「丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム」事業が始動し、その活動を支援している。

4-1.

- ・丹波竜化石工房 2023 年度夏期特別展「鳥盤類展～植物食恐竜のホネの秘密～」の開催（協力）
- ・丹波竜フェスタの開催（協力）

4-2. 各種事業への参画

- ・丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会 2 回（R5 6/21, R5 3/15）
- ・元気村かみくげが主催する試掘調査への参画（協力）

（恐竜タスクフォース 池田忠広・太田英利・半田久美子・廣瀬孝太郎・久保田克博・生野賢司・田中公教）

■ D&I（ダイバーシティ&インクルージョン）タスクフォース 令和5年度の主な事業

令和4（2022）年10月に策定された「ひとはく将来ビジョン」において、当館のD&Iの取り組みをさらに充実させることが示され、令和5年度にD&Iタスクフォースが新設された。当タスクフォースでは、すべての人に「地域を愛する心を育み、地域の自然・環境・文化を継承する」ことに関わっていただけるような環境を整えること、全ての人々が自然・環境・文化に触れることで、何らかの感情が揺さぶられ、その結果、その人の人生の豊かさに繋がる何かが得られるようなサポートを推進することを目指している。

(1) ユニバーサルの観点による展示・設備の点検

D&Iタスクフォースメンバーおよび展示空間を担当する職員により、館内の設備について①物理的なアクセシビリティ、②情報へのアクセシビリティ、③特別な配慮ニーズを持つ人の視点からチェックし、多様な立場の人にとってのバリアの有無、その状況について点検を行った。特に、①については車椅子利用者、ベビーカー利用者、視覚障害者の立場に、②については日本語を母語としない人々の立場、視覚障害者や視点の低い人々の立場に留意した。また③については、展示室内における必要な資源（水、静かな場所、点字、トイレなど）へのアクセスの観点を重視した。

(2) 特別な支援ニーズのある人々との直接的なコミュニケーションと館内環境改善

当館の近隣にあるひまわり特別支援学校（肢体四肢に重度の障害を持つ児童が多い）に訪問し、授業の見学とヒアリングを行うとともに、当館への遠足に帯同することで、特別支援学校の児童の当館での過ごし方・展示の楽しみ方を理解し、館内のどこに・どのような場面に利用に際してのバリアが存在するのかについて情報収集した。

情報収集の結果、館内での飲水可能な場所が4階のみであることがバリアになっていることが確認されたため、展示室各階の、利便性と資料・展示物の保存の両観点を勘案した場所に、飲水可能な休憩コーナーを新たに設置した。

(3) 日本語を母語としない方にとってのバリア解消に向けた取り組み

兵庫県国際交流協会（Hyogo International Association）に、兵庫県の在留外国人や留学生の生活に関するヒアリングを行い、当館で実現可能な国際交流の方向性として、兵庫県外国人国際交流員の協力による常設展示・セミナーの多言語化や、留学生が多く在籍する大学キャンパスでのアウトリーチ展示の実施などの着想を得た。

※このほか、生涯学習推進室および海外インターンシップ（フランスから2名）研修生による展示資料の解説パネルなどの英語翻訳の作成や、既存の英語コンテンツのわかりやすい表記への修正、外国人来館者の利用に関するレポートの作成が行われた。また京極研究員が英語による兵庫の自然を紹介

するオープンセミナーを開催した。

(4) 職員の資質向上のための研修プログラムの試行、D&I情報の共有

希望する館内職員を対象にD&Iゼミを3回実施した。第1回は、館員の自己研鑽に役立つD&Iに関する書籍・文献の紹介、第2回は館長による米国の公園におけるユニバーサル対応の歴史についての講義、第3回はD&I TFの令和5年度上半期の活動報告とした。

職員の資質向上に役立つ書籍を選定し、閲覧可能な図書として館内に配架した。

館内メーリングリストを用いて、兵庫県博物館協会や全日本博物館学会などの外部団体が主催するD&Iに関連する講演・セミナーの開催情報や、障害者差別解消法をはじめとする各種法律に関する情報を全館員に対して不定期に提供した。

(5) 当館D&I活動の対外的発信

全国科学博物館協議会第31回研究発表大会（令和5年度）において、「館のダイバーシティ&インクルージョンの充実化に向けて～兵庫県立人と自然の博物館の事例～」を発表した。

また兵庫県博物館協会令和5年度第2回研修会において当館のD&Iの取り組みについて発表すると共に、博物館活動にインクルーシブデザインの視点をどのように取り入れたらよいかを考えるパネルディスカッションをコーディネートした。なお、研修会の開催内容についてはWEB公開可能な報告書としてまとめた。

(D&Iタスクフォース 橋本佳延・山田量崇・藤井俊夫・福本 優)

■ Kids タスクフォース 令和5年度の実施

(1) ふるさと兵庫子ども環境体験推進事業（ひょうごエコロコプロジェクト）の実施

ひとはくでは兵庫県環境部環境政策課と連携し、県内の全幼稚園・保育所・認定こども園等（約1,500園）を対象に乳幼児期のこどもたちへの環境体験機会の創出と環境体験が継続的に実施できる仕組みの構築を目指し「ふるさと兵庫子ども環境体験推進事業（ひょうごエコロコプロジェクト）」を令和元年度より開始した。この事業の中核を担う専門人材として、「こども環境体験コーディネーター」（2名）及び「こども環境体験スタッフ」（1名）の職種を設置し、令和5年度は以下の事業を展開した。

1-1. 環境体験事業の実施

- ・しぜんたいけん（訪問タイプのプログラム）実施園数：112園
 研究員やこども環境体験コーディネーター、こども環境体験スタッフが園に訪問して、園庭や近隣公園等の動植物を用いた自然体験プログラムをこどもたちへ提供。
- ・たいけんデビュー（訪問タイプのプログラム）実施園数：164園
 園に訪問して、ダンゴムシさがしなど、環境体験の導入的なプログラムをこどもたちへ提供。
- ・しぜんえんそく（遠足タイプのプログラム）実施園数：43園
 県立公園等で園の遠足を受け入れ、ひとはくスタッフや各施設のスタッフが虫やどんぐりなどを用いた自然体験プログラムをこどもたちへ提供。
- ・親子参加型のプログラム 参加したこどもの園数：304園
 親子で参加する自然体験機会を提供。
- ・エコロコBOXの貸し出し園数：63園
 拡大装置等の自然体験を支援するセット「エコロコBOX」を貸出。

1-2. 人材育成事業の実施

- ・エコロコかふえの開催 参加園数：30園
 現役の幼稚園教諭や保育士等へ園での自然体験実践につなげるための仲間づくりとノウハウを学ぶ機会を複数回様々な地域で開催。

- ・園の先生向けの研修 参加園数：154 園
園の先生へ園庭や近隣公園の自然を活用するノウハウなどを提供。

1-3. コンテンツ開発

- ・自園プログラムの開発
各園での取り組みを促進するためのコンテンツ「エコロコわくわくみつけ」の制作・配布・配信。
- ・ホームページやメーリングリストで配信
ネットワークを拓げるため、専用ウェブサイトや園の先生の会員メーリングリスト等で配信。

(2) Kids キャラバンの実施

移動博物館車「ゆめはく」(2tトラック)を活用したキャラバン事業(アウトリーチ活動)として、幼稚園や保育所、認定こども園などを訪問した。昆虫標本の展示や、恐竜の頭骨レプリカと化石・鉱物標本の観察、拡大装置での生きもの等の観察、ひょうごの昆虫や丹波の恐竜化石のキューブパズルの4つのプログラムを行った。今年度は88園から申し込みがあり、このうち20園で実施した。

(3) Kids サンデーの実施

月の第1日曜日を「Kids サンデー」と呼び、小さな子どもとその家族向けのプログラムを実施している。今年度は、5月のKids サンデーを連休の3日間として計13回(4/2、5/5、5/6、5/7、6/4、7/2、8/6、9/3、10/1、11/5、12/3、1/7、3/3)実施した。

(Kids タスクフォース 半田久美子・小舘誓治・八木 剛・大平和弘・辰村 絢・河田麻美)

■ 次世代タスクフォース 令和5年度の主な事業

次世代タスクフォースは令和5年度から新規に立ち上がったタスクフォースである。おおむね高校生から大学生程度を対象とした、自然・環境・文化の担い手となる次世代の育成を目的に活動を行っている。メンバー個人の自由な発想を重視したボトムアップ型の活動を中心とし、以下の取り組みを行った。

(1) アウトリーチ企画の計画および実施

すでにひとくが行っているセミナー活動等の枠組みを利用しつつ、下記の通り新規メニューの検討をするとともに、一部メニューを実施した。

1-1. オンラインオープンセミナー「研究員による研究ばなし」

研究員が取り組んでいる研究内容を紹介するセミナーを6月の毎週土曜、4週にわたり実施した。このセミナーでは内容を平易にするのではなく、あえて込み入った話もすることで、研究の最前線を伝えることを目的とした。

1-2. 一般セミナー

高等学校のカリキュラム改定等に対応した教職員・指導者セミナーを実施した。具体的には、表計算ソフトを用いた進化モデルや、生物統計についてのセミナーを実施した。このほか、論文の読み方やデータ解析法などについて解説することで研究活動を支援するセミナーを実施した。また、令和6年度に向けて教職員・指導者セミナーの新たなメニューの追加を行った。一部の教職員・指導者セミナーについては一般セミナーとして夏休み以外の時期にも実施することとした。

1-3. 出張授業等

高等学校での出張授業等を行った(4校8件)。

(2) 広報

高校や大学を主な対象とした事業の広報を行うとともに、広報等の改善策について以下の通り検討を行った。

2-1. 教職員・指導者セミナーの広報

高校教員を主な対象とした教職員・指導者セミナーの広報を、兵庫県高等学校教育研究会の科学部会および生物部会の総会において行った。

2-2. ひとはくホームページ「研究員紹介」の充実化

研究員の専門分野や研究内容が高校生や大学生に伝わりやすいよう、ひとはくホームページの「研究員紹介」ページの充実化を図った。

2-3. サイエンスフェアへのブース出展

第16回サイエンスフェア in 兵庫へブースを出展し、高校生および高校教員へひとはくの広報を行った。

(3) その他

下記の取組みを行った。

3-1. 中学校および高校における研究活動への指導のあり方についての検討

3-2. 館員による、高校生・大学生等を対象としたアウトリーチ等の取組み状況の把握

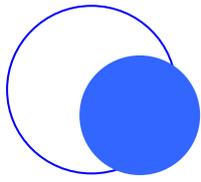
3-3. 高等学校の状況等に関する情報収集

高校教員への聞き取り、咲いテク情報交換会への参加などを行った。

3-4. 高校生・大学生による館内でのセミナー・イベント

祥雲館高校の生徒によるオープンセミナー（8月5日）を実施した。また関西学院大学の学生によるイベントを開催した（8月6日）。

(次世代タスクフォース 京極大助・衛藤彬史・高橋鉄美・山崎健史・中濱直之)



プロジェクトと地域連携の取り組み

ひとはくでは、2002年度の「新展開」以後、館長辞令による館独自の職制を導入し、研究員が事業部やタスクフォースを兼務する体制で事業を推進してきました。更に2012年度に「ひとはく将来ビジョン」をとりまとめ、組織体制・マネジメントのあり方の一つとして、「適時チームビルディングを行う柔軟な組織体制」を掲げました。変化の激しい社会情勢に柔軟に対応するため、課題やミッションに合わせ、チームづくりや事業等のリストラクチャリングをフレキシブルに行うことができる仕組みが必要であり、2014年度より、「プロジェクト制」の導入を開始しました。これは、研究員になじみのある研究プロジェクトの方法を、事業等にも適用したもので、各研究員が自由に新規に立ち上げることができます。構成員は代表者、分担者、協力者で、ひとはくの職員に限らず、外部と協力して行うことができます。また外部資金の導入も積極的に進めています。ひとはくの活動を網羅する内容になっており、国際交流事業やシンクタンク、生涯学習プログラム、収蔵資料、学術研究など多岐にわたっています。ひとはくでは独自に中期目標を設定し定量的な指標を用いて評価を行っていますが、プロジェクトでは、定量的に把握できない質的なパフォーマンスを表しています。2023年度は、多様な主体との連携を強化するため、研究員が恒常的・定期的にアドバイスをしているもの、団体構成員となっているもの、企画・計画・実践で事業・プロジェクトに参加しているものなどを地域連携の取り組みとして、新たに取り上げました。

2023年度は、下記115件のプロジェクトと地域連携の取り組みを展開しました。

■ 2023年度のプロジェクトと地域連携の取り組み(計115件)

	プロジェクト名	内容
1	顕栄短期大学標本の登録・整理	OCR+NERを用いた標本情報入力システムの更新に伴い、標本整理をさらに加速する。
2	兵庫県産植物を中心とした植物分類学的研究	博物館活動の基盤となる資料収集の強化、及び県産の絶滅危惧種、希少種を対象とした繁殖様式、フェノロジー、系統解析等、保全に資する基礎生物学的研究を実施する。
3	植物標本デジタル化の促進	未撮影のシダ植物標本について継続して撮影を行う。
4	シソ科タツナミソウ属の分類学的再検討	分類が混乱している日本産シソ科タツナミソウ属について再検討を行う。全国からサンプルを集めてMIG-seq解析を行った結果、コバノタツナミの多系統性と未記載種2種の存在が明らかになった。
5	ひとはくアカデミック・ステイ in 但馬	兵庫県の自然を研究者とともに学び体験出来る宿泊型学習プログラムを実施し、子どもたちが身の回りの環境に関心を持ち、自然科学への探究心をはぐむとともに、兵庫県へのふるさと意識の醸成につなげる。
6	連携団体が取り組む篠山層群関連各種事業の支援	篠山層群化石の調査・研究成果を活用した様々な取り組みが各連携団体によって実施されている。これらの活動を学術的観点から支援する。
7	ジーンバンク事業の推進	生物多様性保全を目的として、絶滅危惧植物等の危険回避、緊急避難、系統保存、増殖および種子保存を行う。また、生物多様性に配慮した植生・生態系の創出を目的として、地域性種苗を用いた公共用地・企業用地等における緑地形成支援を行う。また、これらジーンバンク事業の実現に必要な調査・研究、技術開発を進めるほか、ジーンファーム見学会等の実施を通じ環境学習・生涯学習支援を行う。
8	国内希少野生動植物種の保護増殖事業支援及びゲノム情報の把握	国内希少野生動植物種のうち、ウスイロヒヨウモンモドキ及びフサヒゲルリカミキリ、ライチョウ、オガサワラハンミョウ、オガサワランジミの保護増殖事業の支援を行う。更に国内希少野生動植物種のうち昆虫類のゲノム情報を把握及び遺伝解析から近交弱勢の影響を評価し、長期的な個体群の維持を目指す。
9	里地里山に生息する在来種における遺伝的攪乱の現状把握	里地里山に生息する在来種のうち動植物に焦点を当て、集団遺伝解析によって遺伝的攪乱進行状況を把握する。
10	ジーンファームにおける生育域外保全植物の遺伝的多様性評価	ジーンファームで生育域外保全を実施している植物について、野生集団と比較してどの程度遺伝的多様性を保持しているかを解明する。

11	絶滅危惧種の植物や昆虫における遺伝情報の蓄積	絶滅危惧種や国内野生動植物に指定されている昆虫や植物について、生息域内や域外における保全活動を目的として遺伝情報を蓄積する。
12	絶滅危惧植物の遺伝資源サンプル収集	兵庫県に生育する絶滅危惧植物を中心に、遺伝解析用のサンプルを収集する。将来世代がこうした遺伝解析用サンプルを解析できるように、博物館における恒久的な収蔵を目指す。
13	花の寿命をめぐる花粉とめしべの相互作用	花の寿命をめぐる受粉した花粉とめしべの間に利害対立があるという作業仮説のもと、花寿命を決める機構として、受粉した花粉の形質の影響を明らかにする。
14	県立西脇北高校出張授業	「理科探求」での話題提供をする。
15	県立三田西陵高等学校館外講演	文理選択のための話題提供をする。
16	半翅目昆虫の交尾器形態の相同性の検討ならびに外部形態情報の蓄積	半翅系昆虫の系統関係の諸問題を、従来をはるかに上回る精度と量の形態データによって検証し、半翅系昆虫の多様性をもたらした進化的背景を明らかにする。
17	兵庫県および周辺地域の昆虫類のインベントリーと収蔵資料の充実	兵庫県内の未調査地域や未研究グループを重点的に、県産昆虫相の解明に向けたインベントリー調査を行い、当館の参照標本の充実を目指す。
18	外来昆虫の分布拡大に関する調査	見過ごされがちな微小昆虫類を対象に、地域の外来昆虫に関する各種情報を蓄積し、外来昆虫へのインパクトを検討するための基礎資料とする。
19	兵庫県産キクイムシ類の多様性	兵庫県の森林環境に生息するキクイムシ類の多様性を把握するとともに、阪神地域の異なる公園環境におけるキクイムシ類の発生動態を解明する。
20	貝殻を利用する矮小シクリッドの平行進化および側所的種分化の機構解明	タンガニカ湖における潜水調査・資料採集、及び日本での分子解析を行うことにより、シクリッドの <i>Telmatochromis temporalis</i> 矮小型が並行して側所的種分化した遺伝機構を解明する。
21	養父市における中山間農業特区事業の効果検証	国家戦略特区の指定を受け、規制緩和をはじめとした企業による農業参入を促す養父市における事業評価を通じて、人口減少下における持続可能な農用地資源のマネジメントのあり方を検討し、提言する。
22	地域主体交通の立ち上げ、運営支援	日常的な移動が主に自家用車に依存する地域において、住民が主体となった送迎サービスの持続可能な運営手法を検討し、実装を支援する。
23	6次化を通じた在来種保全	在来種の青大豆である八鹿浅黄(ようかあさぎ)、八鹿青、不来坂吉良大豆等の保全と継承について取り組む。
24	伝統的農業システムの動的保全に向けた進化メカニズムに関する日中比較分析	日本と中国の世界農業遺産地域(国レベルの農業遺産も含む)を対象に、生物学の進化メカニズムを援用しながら、内外の環境が変化する中で、伝統的農業システムの何が残り、何が変わったかを、農法、知識継承、地域資源管理等の点から複眼的に明らかにする。そして、導き出した進化メカニズムをもとに望ましい動的保全のあり方を提示する。
25	放棄地での生物多様性保全に資する集畜連携放牧手法の解明	放棄地での牛の放牧に先進的に取り組む美方郡を事例に、生物多様性保全の観点からみた望ましい放牧の実施形態の解明を目指す。
26	琉球列島を中心とした熱帯～温帯アジアの爬虫・両生類相の多様性と自然史に関する研究	琉球列島を中心に熱帯アジアから日本本土にかけての爬虫・両生類相の多様性・固有性・自然史をテーマに、その現状の把握、そして背景となる地史・環境履歴の解明を目指す。
27	ブータンの爬虫・両生類の多様性に関する調査研究	長きにわたる鎖国政策の影響で知見の少ないブータン王国の爬虫・両生類そうに関する調査研究を進める。
28	加東市との連携と環境学習事業への支援	協力協定に基づく環境学習事業への支援、特に「加東市ノーベル大賞」の審査と講評を行う。その他、学校教育との連携による環境学習プログラム開発などを行う。
29	山陰海岸および播磨灘沿岸における海岸植生の保全推進	海岸植生の生物多様性保全に向け、現地モニタリングの他、絶滅危惧種等を対象とした発芽試験、栽培試験、系統保存、遺伝的多様性の評価等を行う。
30	兵庫県における重要植物群落の現状把握と保全推進	兵庫県内の重要植物群落の現状を把握し、環境施策や森林整備事業の企画立案に必要な基礎資料の充実を図る。収集した植生写真や植生調査資料はセミナーや展示で活用する。
31	北摂里山博物館構想の支援	「北摂里山博物館構想」の推進に向けた各種取り組みを支援し、北摂地域の生物多様性保全と地域振興を図る。具体的には、植物・植生の保全・管理手法の開発・普及、自治体への政策提言、自治体や市民団体、企業などの活動支援、児童生徒や地域住民の環境学習支援、生物多様性保全の担い手の育成などを行う。
32	三田市皿池湿原の保全	三田市の皿池湿原は兵庫県版レッドデータブックの A ランクに指定されている。しかし、この湿原では様々な問題(遷移の進行に伴うヌマガヤ群落や木本群落の拡大、周辺部に広がる放置里山林の照葉樹林化など)が発生しており、今後の生物多様性の減少が懸念されている。三田市と連携してこの湿原の保全を図る。
33	たつの市鶏籠山の照葉樹林の保全	たつの市鶏籠山の照葉樹林は兵庫県版レッドデータブックの B ランクに指定されている。しかし、鶏籠山はシカの生息密度が非常に高く、シカの食害による照葉樹林の衰退が大きな問題となっている。林野庁と連携してこの樹林の保全を図る。

34	乾燥種子標本の収集・活用	開館当初から収集・保管してきた乾燥種子標本を今後も適切に保管すると共に、展示やセミナー、キャラバン事業などでの標本の活用を図る。また、収集活動の継続や寄贈の促進、他館との標本交換などを行うことで標本のさらなる充実化を図る。
35	棚倉町里山再生・活用プロジェクト	福島県棚倉町で里山の保全・活用に向けた各種の取り組みを行う。
36	「エスペック 50 年の森」の生物多様性調査	2022 年 11 月～植樹を開始した「エスペック 50 年の森」では、スギ・ヒノキの植林に替わり、有用広葉樹による植林を実施しているが、生物多様性の観点での効果について定量データを蓄積し、その効果を明らかにすることで、今後、全国で実施される植林活動に対し改善提案を行う。
37	「三田さくら物語」事業の支援	三田市が進めている「三田さくら物語」事業を支援するため、市内に自生するサクラ類の苗を育成する。
38	朝来市の環境施策の支援	環境基本計画、ゼロカーボンシティ推進計画、生物多様性戦略の策定を支援する。
39	三田市の環境施策の支援	生物多様性戦略の策定を支援する。
40	兵庫県立御影高校の支援	御影高校の普通科改革における新学科設置事業を支援する。
41	ひとはくのハチ類コレクション整備推進プロジェクト	ひとはくのハチ類コレクションはタイプ標本を含む日本・アジア各地の標本からなり、当館を特徴づけるコレクションになっている。更に、2015 年度には 4 万点に及ぶ日本産カリバチ・アナバチ全種オス・メス標本の寄贈を受けた(羽田コレクション)。本プロジェクトでは、当館のハチ類コレクションの整備と更なる充実・活用を推進する。また、公開可能な標本データについては、当館 HP や GBIF 等で公開していく。
42	陸上節足動物のデジタルデータ登録	博物館に登録された陸上節足動物の写真データを、館内のデータベースに登録する。
43	兵庫県産クモガタ類・多足類標本の収集	兵庫県の生物相を明らかにするため、陸上節足動物のうち、クモガタ類・多足類を中心に標本を収集し、兵庫県の生物地理学的な特徴を明らかにする。
44	餌資源の分割によるハエトリグモ類の多様性創出と維持	ハエトリグモ類に見られる食性の多様性が、種の多様性に及ぼす影響を、安定同位体分析や系統解析によって明らかにする。
45	海産付着動物の着底場所選択性に関わる遺伝的基盤の解明	フジツボやサンゴなどの海産付着生物を対象として、室内実験と遺伝子解析を行い、幼生の着底場所選択に関わる分子基盤の解明を行う。
46	フジツボの着生過程での微生物叢形成と環境ストレス耐性に関する研究	環境ストレス耐性が低いとされる着生前後のフジツボの幼生が、微生物叢を形成することによりストレス耐性を向上させているという仮説を実験的に検証し、ストレス耐性に関わる有機化合物を同定する。
47	汚損性付着生物の防除に関わる化合物の生物試験評価	人工物に付着して環境的・経済的悪影響を及ぼす海産付着生物の防除を目的として合成された化合物の付着防除活性を調べ、新規付着防除剤の開発を目指す。
48	海産外来種の国際学術会議の開催	海産外来種に関する国際学術会議(International Conference on Marine Bioinvasions XI)を開催し、海産外来種に関する学術的知見の情報交換、共同研究プロジェクトを促進させる。
49	海洋生物を使った探究学習支援	高校の探究活動において、タマキビやフジツボなどの海洋生物を使った実験、解析、成果発表の指導を行う。
50	オンライン展示会	北海道標津高校の生徒を対象に、兵庫県内の中高生が web ツールを使ったオンライン展示説明会を実施し、ひとはくの活動や兵庫の自然環境の紹介をするとともに、交流を深める。
51	日本国内の沿岸海洋生物の資料収集・整理	日本各地の沿岸から海洋生物を収集し、液浸標本として液浸収蔵庫に整理して収め、コレクションを充実させる。
52	Kids キャラバン	幼稚園・保育所・こども園へ移動博物館車「ゆめはく」を活用して展示や体験型プログラムを届ける活動のコーディネートを行う。
53	地学系収蔵庫の資料整理の推進	地学系収蔵庫に保管されている資料の整理を推進し、コレクションの管理と利活用促進を行う。
54	ミツカンよかわピオトープ倶楽部支援	ミツカンよかわピオトープ倶楽部によるピオトープを活用した事業支援(ピオトープに関わる啓発・人づくり等)を行う。
55	尼崎 21 世紀の森構想の推進支援	兵庫県の重要施策の 1 つである尼崎 21 世紀の森構想の推進に向けて、新たな 10 年のキックオフから人材養成、制度設計に至る推進支援を包括的に行う。
56	ジオの教室 in 淡路	淡路地域に焦点を当てて化石や地質を紹介するセミナーや展示解説を現地で実施することで、地域資源の価値を訴え、ふるさと意識の醸成を支援する。長期的には稀少資料の散逸防止にもつながるよう、博物館の役割とその重要性についても紹介する。2023 年度は南あわじ市内で 4 回、淡路市内で 2 回実施した。
57	地学系資料データベースの整備	地学系収蔵資料の適切かつ効率的な管理・活用に役立てるべく、館内用「資料データベースシステム」および公開用「ひとはく収蔵品検索システム」の改善に取り組む。2023 年度は、データの入力・更新を積極的に進めるとともに、デジタル・アーカイブ化のマニュアルを作成し、収蔵資料の画像等の撮影・登録に本格的に着手した。

58	赤穂市立海洋科学館との連携	展示協力、共同イベントの開催
59	淡路夢舞台公苑温室 あわじグリーン館との連携	展示協力、共同イベントの開催
60	淡路島 国営明石海峡公園との連携	展示協力、共同イベントの開催
61	北淡震災記念公園 野島断層保存館との連携	活動に関する助言、共同イベントの開催、施設の修繕指導
62	香美町小代観光協会との連携	共同イベントの開催
63	兵庫県立尼崎小田高等学校との連携	講師派遣
64	加西市生活環境部環境課との連携	講師派遣
65	兵庫県立加古川東高等学校との連携	講師派遣
66	兵庫教育大学との連携	講師派遣
67	石ころクラブとの連携	活動に関する助言、共同イベントの開催、施設の修繕指導
68	フレミア宝塚との連携	講師派遣
69	丹波篠山市立太古の生きもの館との連携	活動に関する助言
70	兵庫県立丹波並木道中央公園との連携	展示協力、共同イベントの開催
71	元気村かみくげとの連携	活動に関する助言
72	丹波市立丹波竜化石工房との連携	活動に関する助言、展示協力
73	丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会との連携	活動に関する助言、講師派遣、共同イベントの開催
74	丹波の森公苑との連携	共同イベントの開催
75	兵庫県立西脇北高等学校との連携	講師派遣
76	南あわじ地学の会との連携	活動に関する助言、講師派遣、展示協力、共同イベントの開催
77	神戸市立青少年科学館との連携	展示協力
78	南あわじ市埋蔵文化財調査事務所との連携	共同イベントの開催
79	兵庫県下市町の生物多様性地域戦略の策定・推進を目的とした行政支援	年1回程度の市町の生物多様性施策担当者を対象とした情報交換会を開催し、生物多様性施策担当者が博物館や近隣市町への相談や事例把握をしやすい環境を整え、そのことによって、地域戦略策定・推進に貢献する。また生物多様性地域戦略を策定した市町に対して委員等を派遣して、戦略推進に対するアドバイスをを行う。またこれから戦略を策定しようとする市町の相談を積極的に行うとともに、戦略の策定の必要性を働きかける。
80	植生資料データベースの構築・公開	神戸大学発達科学部植生研究室(武田義明教授)や杉田氏より寄贈された1960年代以降に調査された国内各地の植生調査資料をデジタル化、データベース化し過去の植生の変遷や地域の植生の特徴を理解するための基礎資料として活用する。WEB上での公開も検討し、広く研究者、専門家が利用できるデータベースを目指す。
81	植物・植生映像資料データベースの充実と有効活用	開館当初より収集し、データベース化している植物・植生映像資料を適正に保管するとともに、映像資料の寄贈の受入や館員による収集映像の追加によりデータベースを充実化し、過去の植生の変遷や地域の植生の特徴を理解するための基礎資料として活用する。WEB上での公開も検討し研究者、専門家だけでなく広く県民も利用できるデータベースを目指す。
82	ひとはく生物多様性の森を活用した市民活動・環境学習支援	深田公園の当館管理区域に位置する残存林および人工林で現在行っている里山管理および施設管理を継続し、兵庫方式の里山管理の見本林として整備する。また里山の代表的な植物を観察できる場所に整備する。安全管理上の問題もあるため、完全一般公開とはせず、里山活動を行う市民団体や行政、企業向けのセミナーや学校団体等の環境体験学習等で活用する。
83	三田市南公園 まちなか里山保全プロジェクトの支援	三田市が策定した南公園の里山公園管理計画である「まちなか里山基本方針」の実現を支援するための、人材育成プログラムに対する講師派遣やコンテンツ提供、育成された人材で結成される活動団体への支援を行う。また整備された南公園を活用して、ひとはく独自の環境学習プログラムの実施(主に特注セミナー)を検討する。
84	平谷川を楽しもう	神戸市の須磨区から垂水区を流れる二級河川・福田川の流域において、福田川クリーンクラブやれいんぼうキッズといった市民団体の環境保全活動、環境教育活動を支援する。

85	神戸市・高塚山における市民活動の支援	神戸市西区に位置する高塚山において、市民団体「高塚山を愛する会」および有志の地域住民が展開している高塚山内でのアクティビティおよび環境教育活動を、プロジェクトマネジメントの観点から支援する。
86	宮崎海岸浸食対策事業における市民・行政・専門家間の合意形成マネジメント	国土交通省宮崎河川国道事務所が直轄事業として進めている宮崎海岸浸食対策事業において、市民連携コーディネータとして、市民・行政・専門家間の合意形成マネジメントを行う。具体的には、事業に関する意見交換を行う「市民談義所」のファシリテーション、および効果検証委員会などの専門家会議における市民意見の報告を担う。
87	神戸市・多井畑西地区の環境保全に向けた合意形成マネジメント	神戸市垂水区・須磨区にまたがる多井畑西地区は、貴重な里山環境が残存した市街化区域である。神戸市が都市型の里山としての保全・活用を目指すこのエリアのビジョン策定に向けた合意形成マネジメントを担う。
88	神戸市・塩屋地区のまちづくり	神戸市垂水区の塩屋地区では住民主体による様々なまちづくり活動が展開している。塩屋まちづくり推進会のメンバーおよび各々のまちづくり活動のアドバイザーとして支援を行う。
89	明石市立図書館における妖怪と安全の研究室	あかし市民図書館および明石市立西部図書館では、地域の子どもたちに向けた「研究室」プロジェクトを展開している。「妖怪と安全」をテーマに、地域の安全マップを作成する教室を展開する。
90	JR 篠山口駅周辺まちづくりビジョン策定支援	JR 篠山口駅周辺のまちづくりビジョンの策定に向けたワーキンググループの会議およびWS のマネジメントを行う。また、駅周辺において実施する社会実験の設計・実行におけるアドバイスを行う。
91	加古川市西山地区田園まちづくり計画策定支援	加古川市内の市街化調整区域内におけるまちづくりに向けた「田園まちづくり」の計画策定に向けて、地域組織の立ち上げと運営についてのアドバイスを行う。
92	れいんぼうキッズの活動のサポート	神戸市立福田小学校区において活動する地域の子どもサークル活動において、川遊びや里山での体験活動などのサポートを行う。
93	神戸市立大沢中学校における防災教育の支援活動	大沢中学校の2年生を対象とした防災教育プログラムにおいて、講義、グループワーク、フィールドワークのデザインおよび実施の支援を行う。
94	ESD 推進ネットひょうご神戸のマネジメント	兵庫県下において ESD(持続可能な開発に向けた教育)活動を展開する 116 団体から構成されるネットワーク組織のマネジメントを行う。また、国内外の ESD 関連団体との連携促進に向けた実践活動を行う。
95	堆積物を用いた水域の環境動態解析	堆積物やモニタリングデータから、水域生態系の動態とそれを駆動するシステムを明らかにする。都市沿岸域や湖沼、およびその集水域を研究対象地域とする。多岐にわたる分析・解析手法により研究を進めながら分野のネットワークを維持・発展させると共に、研究成果に基づいて地域の教育や環境問題に資する情報を提供する。
96	地域の地形・地質に基づく環境・防災教育の展開	大阪平野や大阪湾、淡路島など、身近な地域の地形・地質を題材とした教材を開発し、それを用いた普及・教育を展開することで、防災や環境問題についてより深い理解が地域に浸透することを目指す。
97	有殻微細生物の高分解能イメージングに関する研究	サブミクロンオーダーの複雑な微細構造を有する微化石(珪藻や有孔虫、放射虫など)の骨格・殻のマイクロ/ナノ-CT 撮影により 3D イメージを構築し、形態情報を解析することで、生物進化、細胞機能を理解する。
98	Kids サンデープロジェクト	子ども向けあるいは家族向けのイベント等を行う「Kids サンデー」を実施する。
99	「深田公園植物情報」展示等による演習プログラムの試行	4 階ひとくサロンから見える範囲での植物を観察する場所やポイントなどの情報を 1〜2 ヶ月ごとに「深田公園植物情報」として内容を更新する(専用展示台によって、ひとくサロンで展示)。また、深田公園を使って植物を対象とした演習プログラムを試行する。
100	年配者と地域の子どもをつなぐプロジェクト	年配者と一緒に地域の小学校や児童館などへ行って、自然や環境、生きものについてのプログラムを実施しながら、年配者と地域の子どもたちがコミュニケーションするあり方を検討する。
101	東・東南アジア地域のツユクサ科の分類学的再検討	日本・タイおよび周辺地域のツユクサ科植物約 13 属(未記載種多数)を採集・形態調査・DNA 解析し、分類学的再検討、系統・形態進化の推定を行う。今年度はタイ西部の調査と Flora of Thailand の分担部分の執筆を行う。
102	複雑な染色体の多様性を持つ複合体ツユクサの種生物学的実態の解明	日本全国に分布する種であるツユクサを採集・形態調査・DNA 解析し、分類学的再検討を行う。今年度はデータ解析を行う。
103	植物標本収蔵環境を利用した少人数実習の開発	植物標本および収蔵室を用いて、植物の系統的・形態的多様性に網羅的にアクセスできるコレクションルームの環境を活かした実習・セミナーを計画・実施し、当館で植物標本を教育的に活用する方法を整備する。
104	共生のひろば	「創造と共生の舞台・兵庫で参画する皆さんが共演する生涯学習院」の推進のため、長年継続してきた担い手育成の中核事業であり、年間でもっとも多くの入館者数、参加者数を記録。ひとく地域研究員や連携活動グループをはじめ、地域活動を行っている方々が、お互いの活動を知り、活動の質をあげ、新たな展開のヒントを得る場としての「交流の場づくり」を行う。

105	自然史標本の汎用化と収蔵技法の標準化と体系構築	自然史博物館の標本管理と保存、活用の技法は、1990年以降、あるいはもっと以前の段階から殆ど進展していない。データ整備や収納、デジタル技術、薬品処理や保存科学の方法論は大きく進展しているが、これらの知見が反映されていない。本プロジェクトでは、最新の科学的な知見を取り入れて、新たな活用や効率的な整備方法について、現代様式での収蔵技法の体系を、全国の博物館ネットワークを通じて構築する。
106	兵庫県外来生物対策協議会の運営	兵庫県における生活や経済に特に有害な外来生物への対応について、理論と実践に基づく施策立案を進める。ヒアリ、アルゼンチンアリ、クビアカツヤカミキリ、ナガエツルノゲイトウ、アライグマ等の対策を環境政策として進める。
107	小規模保全技術の開発と推進	直営作業できるインフラメンテナンス、害虫や外来生物対策、文化財や食品の保存技術、廃棄物利用、治水や自然再生について、バイオエコノミーの観点から、小規模技術によって地域循環が可能となる技術体系を構築する。技術開発によって特許等を取得して、その運用益等から、博物館の収蔵資料整理費や老朽インフラの修理を行う。
108	博物館の資源を活用したフラワータウン再生	兵庫県および三田市のフラワータウン再生施策に対して、館事業および施策アドバイザーとして関わり、キックオフプロジェクトやリザーブ用地活用を中心に推進を支援する。
109	三田市地域計画策定支援	三田市内のまちづくり協議会にて地域計画を策定するための、行政支援及び地域団体支援を行う。
110	赤穂海浜公園の魅力アップ支援	県政課題である県立赤穂海浜公園の魅力アップに向けて、助言や事業協力を行う。
111	「地域で支える母子ハウス」運営支援	住宅取得が困難なシングルマザーに対して、住まいの提供とその他の必要な支援を組み合わせて提供するとともに、地域で安定して暮らし定着するためのコミュニティルームの運営を行っているシングルマザーハウスの with について、共同住宅及びコミュニティルームの運営支援を行う。
112	有馬富士公園人材育成	有馬富士公園をフィールドにして地域づくり支援や人材育成プログラムを実施する。
113	「そとはく」による、持続性のあるニュータウン再生への取り組み	博物館周辺の屋外空間を活用する「そとはく」での活動をきっかけに周辺事業者との事業連携を図り、ニュータウン再生のきっかけとなる取り組みを行う。
114	有馬富士公園利活用促進	県立有馬富士公園内を多様な活動のフィールドとして多くの事業主体に利用してもらうため公園運営支援を行う。
115	オンラインセミナー「研究員による研究ばなし～ひととはくが目指す研究の最前線～」の実施	研究員による最新の研究成果を、オンラインで一般市民向けにわかりやすく紹介する。